

コンプレッサーから送る空気量は1分間に約 6.3 m^3 であるが、吸引するのは碎石だけで無く、同時に空気も吸引しているのである。

2つを合計した空気量が吐出ホースから排出されるのである。

現在の吐出ホースは、吸いばあ本体の出口からホースの出口まで全て 20 cm の直径である。

私の提案で 50 m までは 20 cm のホース、 50 m から 75 m までは 25 cm のホース、 75 m から 90 m までは 30 cm のホース、最後の 10 m は 40 cm のホースを取り付けた。

要するにホースの断面を大きくして空気の流速を遅くしたのである。

効果はてきめんである。碎石は飛び出して来ないで、コロコロポトンという感じでホースから出て来る。粉塵は上へ昇らず低い高さで横に広がるので防塵ネットで押さえ込むことが出来た。

翌日、本作業を行い、1日で完了した。

笑い話がある。休憩時間に現場監督から出た要望である。

「この装置の計算式と図面を送ってほしい」僕の返事は

「計算式？そんな難しいことは分かりません。山勘で作りました。計算式は皆さんで考えてください」

「貴方の会社は計算式も無いのに製品を作るのか？」